

# ご隠居・伊能忠敬

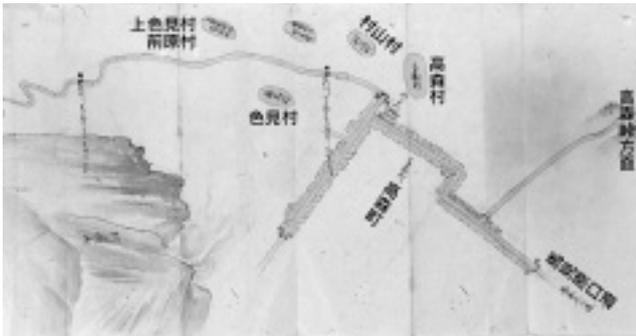
第5回

郷土史研究会会員

二子石 三喜男

(草部出身 熊本市在住)

## 忠敬の測量日記に記載された高森の関係先



1746年に細川藩が作製した「御巡見衆通過沿道地図」に記載された266年前の高森の町並み  
[永青文庫資料(熊本大学図書館蔵)部分]



岩神から河内への旧街道入口に立つ番所跡を示す標木  
(高森町教育委員会設置)

### 6月21日(現在の太陽暦では7月29日)に昼食を摂った家

#### ◎当時永野原村の庄屋を務めていた甲斐宇(卯)兵衛重澄宅で昼食。食事献立は不明

この甲斐家第9代卯兵衛の先祖甲斐左近将監親成は高千穂町河内にあった岩神城(別名亀頭山城)の城主を務めていたが、1594年(文禄3)8月延岡の領主高橋元種にこの城を攻撃され戦死したと伝わり、その子孫が永野原の庄屋を代々務め、左近将監から数えて12代目五郎氏は草部村村長を、13代目磨氏は宮崎師範卒業後教師から校長を経て草部村の教育長を務めた。15代政志氏は現在東京在住。甲斐左近将監親成は御船城主甲斐宗運の弟と伝わる。

### 6月21日の宿泊先

#### ◎馬場村庄屋後藤利平衛基宗宅(本陣)に忠敬が止宿。夕食の献立不明

利兵衛の子孫後藤家十一代廣太氏は村会議員や第12代草部村村長を務め、村の発展に数々の功績があったと伝わり、吉見神社前の道路沿いには村の多くの畠の水田化のために水路開削事業に多大な貢献を果たしたことを伝える顕徳碑が建立されている。(忠敬は利兵衛の身分を徒士段と日記に記録しているが、熊本城外の農村には殿様の身分を通常警衛する徒士役の侍は配属されていなかったことから、一領一疋という肥後藩の侍身分を徒士段と記録したのではないと思われる。)

#### ◎馬場村一向宗西派白竜山(現在は川嶺山)永秀寺に測量隊員9名が宿泊。夕食の献立不明

本尊阿弥陀仏1体をまつる永秀寺は筑前の国の領主黒田孝高、長政親子に仕えた後藤又兵衛基次の三男永秀が出家して了現と名乗り、熊本市坪井に真宗本願寺派永秀寺を開基したのが始まりで、1658年(万治元)水害で寺が被害を受けたのを機に草部に移築したと伝わる。寺は寛政のころと太平洋戦争後の2度火災に見舞われたが鐘楼は焼失を免れている。現在の住職は佐楯見誓香氏。

なお、熊本市にあった寺の土地を細川家に寄進したことから、以来永秀寺は細川家の九曜紋の使用が許されたと伝わり、納骨堂の扉には九曜紋が取り付けられている。

### 6月22日の宿泊先

高森町の萬屋儀七宅(本陣)に忠敬が宿泊し隊員は地役人佐竹嚶助宅に分宿しているが、この両家については、その屋敷や子孫の方々のお名前と関係資料を現在も調査中です。また、この測量の8年前の文化元年と89年後の明治34年には高森町で大火があったとの記録が残されている。

200年前のこの当時、高森手永惣庄屋は田上格治が務めていた。

### 6月23日の宿泊先

上色見村前野原の地士荒牧改助宅と一領一疋後藤尉左衛門宅に宿泊と記されているが、こちらも子孫の方などの関係者を調査中です。

なお、この色見でも上記高森火災の翌文化2年に大火があったことが記録されている。

次号につづく